

2022 年度研究デザイン 亀山市立井田川小学校

教育大綱 基本方針―I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標

生き生き 笑顔で つながって
～自ら学び つながり
心豊かにたくましく生きる
井田川っ子の育成～

研究主題

つなげる，つながる，高め合う
～根拠をもとに伝え合う国語科の授業づくりをめざして～

I 研究主題設定の理由

①子どもの実態

子どもたちは、落ち着いて学校生活を過ごしており、課題や決められた仕事に対して一生懸命取り組むことができる。また、困っている友達がいると声をかけたり一緒に考えたりしようとする姿も見られる。

一方で、自分で考えて行動することや、課題をよりよく解決しようとして話し合ったり考え合ったりする力、さらに追求しようとする姿勢は十分ではない。また、学力差の二極化が見られ、理解度や取り組む速さにも大きな差がある。さらに、自分の思いをうまく言葉に表現し伝えられない児童が多く、それが起因となりトラブルに発展してしまうこともある。

本校は児童数も多く、児童を取り巻く環境も様々である。そのため、別室登校をしている児童やオンライン授業を行い、学校生活に参加している児童もいる。

②昨年度までの取り組みの成果と課題

昨年度は、『つなげる、つながる、高め合う～授業を通したなかまづくり～』を研究主題に設定し、学習したことのつながりや、対話を通して高め合う姿をめざして取り組みをしてきた。その結果、子どもたちの発言やふり返りの中に、既習内容や生活体験とのつながりが見られるものが増え、子どもたちの意識の高まりを感じられた。さらに、「聴くこと」を大切にして指導を行ったことにより、児童の聴き合う意識が高まり、自分の考えと比較して聴くことや、人の意見とつなげて話をしようとする児童が増えてきた。また、ペアやグループなどの少人数では、積極的に意見を交流する姿が見られるようになってきた。しかし、全体の場になると、発言に消極的な児童が多いことや、「同じ」や「賛成」は言えるが、「疑問」や「反対」の意見を言える児童は少ない。そのため、交流はできるようになってきたが、考えを広げたり深めたりすることや、よりよい意見を練り上げていくといった高め合う姿には課題が残った。

Ⅱ 研究主題について

「つなげる」とは、教師が発問や問い返しの工夫をし、子どもたちをつなげること。また、単元構想を練り、既習内容や他教科、生活体験とつなげることである。子どもたちが自然発生的につながっていくことは難しいと考えるため、まずは、教師が意図をもってつなげていくことをねらいとする。

「つながる」とは、子どもたち一人ひとりを大切に、教師と子どもがつながることである。また、授業を通して自分の思いを伝えたり、なかまの考えを聴いたりして子どもたち同士がつながることである。さらに、地域の施設や人材に学び、地域の方々とつながることや教材や先哲の考えとつながることなどが考えられる。様々な対話的な活動を通して、子どもたちが学習活動の中でつなげることの良さを実感することにより学習意欲の向上をねらいとする。

「高め合う」とは、仲間の姿に刺激を受けて「自分もやってみよう、がんばってみよう」と思えるようになることである。子どもたちが、学習活動の中で、自他の考えを大切に、認め合いながらよりよい課題解決方法を考えることができる、解決する喜びを得ることをねらいとする。また、教職員同士も日々の授業や研修によって高め合う姿を目指していくことである。

- ・自分の考えをもつことができる。
- ・自分と他者の考えを比較して聞き、共通点や相違点について話し合うことができる。
- ・子どもたちが互いの良さや頑張りを認め合うことができる。
- ・話し合ったことをもとにして課題に取り組んだり、解決しようとしたりすることができる。
- ・なかまの意見をふまえたふり返りを書き、自分の考えの確立や変容をさせることができる。

井田川小学校めざす子どもの姿

- ・学び合い、想いを伝え合う子ども
- ・認め合い、励まし合い、思いやりのある子ども

「根拠をもとに伝え合う国語科の授業をめざして」

昨年度の研修のふりかえりから、「高め合う」活動に課題があることが分かった。また、児童の実態からも、「自分の考えを伝え合うこと」について課題があると感じた。その要因として、全員が参加できるための手立てが十分でなかったことや、自分の発言に自信をもてない児童が多いことなどが考えられる。そこで、本年度は、国語科の指導の中で根拠をもって意見を伝え合える力をつけていきたいと考えた。さらに、国語科で自分の考えや立場の根拠を明らかにする習慣をつけていくことで、他教科でも根拠を明確にした予想や解答の説明、日常生活でも立場を明らかにした話し合いなどが行われることが期待される。

国語科での根拠は、叙述や描写が中心となる。そのため、十分な教材研究のもと、根拠を明らかにするための支援や手立て、問い返しの工夫について研修を深めていく必要があると考える。授業を通して、まずは、子どもたちが自分の考えをもてるようになることや、自分の考えに根拠をもてるようになることをめざしたい。さらに、叙述や言葉をもとにした話し合いから、思考のズレを調整し、考えを広げ、深め、確立させていけるような高め合う姿をめざしたい。

Ⅲ 研究領域

国語科 自立活動

Ⅳ 研究構想図

亀山市 教育大綱

学校教育目標 生き生き 笑顔で つながって
～自ら学び つながり 心豊かにたくましく生きる 井田川っ子の育成

本校研究主題

つなげる, つながる, 高め合う
～根拠をもとに伝え合う国語科の授業をめざして～

中部中学校区研究主題

主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり
～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

学力の向上

学習意欲の向上

なかまづくり

授業づくり

学習環境づくり

安心できる
環境づくり

教職員研修の推進

子どもの実態把握

V 具体的な取り組み

(1) 授業づくり

- ・つきたい力を明確にした単元構想
- ・つきたい力に応じた言語活動の設定
- ・子どもの意欲を高める教材提示や導入
- ・めあての提示とめあてに対応したふり返りの徹底
- ・児童の思考時間を確保できるタイムマネジメント
- ・個人解決とペアやグループで解決する場の設定
- ・本時での学習の流れが分かる板書
- ・次時、次単元へとつなぐことができる評価
- ・子どもの学びの成果や課題が分かる単元のふりかえり
- ・学習成果物の掲示
- ・研修会やOJTによる教員の指導力向上
- ・児童の予想されるつまずきとそれに対する支援の方法
- ・子どもの思考内容を把握するためのノート指導や机間指導の工夫
- ・子どもたちの発言を整理し、つなげるためのネームマグネットの活用
- ・子どもの発言をつなぐ問い返しの工夫
- ・発達段階に応じためざす対話の姿の確立
- ・各種テストの結果分析と指導への反映

(2) 学習環境づくり

- ・「聴く・語る」「声のものさし」「ことばの宝箱」の掲示と活用
- ・個別の支援方法の確立・・・保護者との情報共有、補充学習、井田っ子スマイルとの連携
- ・国語辞典の活用
- ・読書活動の推進と学校図書館の計画的利用
- ・ICT機器の有効活用
- ・家庭学習の定着・・・学習の手引きやノートの手本の配付、定期的な確認
- ・「ちりつもノート」の活用と掲示
- ・チャレンジプリントの取り組み
- ・ぐんぐんタイム（水曜5限目）の取り組み
- ・各種プリント教材（学-Viva, わかる・できる など）の活用
- ・学習規律表の定期的な見直しと指導内容の共通理解

(3) 安心できる環境づくり

- ・話す、聴くルールの徹底
- ・互いの違いを認め合い、受け止め合える集団作り
- ・マイノートの活用
- ・教育相談、家庭訪問の実施
- ・道徳科の授業の充実
- ・学年人権集会、全校人権集会を中心に据えた人権教育の推進
- ・「見つめる子」を設定したなかまづくりの取り組みと検証
- ・QUアンケート、人権アンケートの実施と分析、情報交換